



2019 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第7戦・8戦

開催場所 スポーツランド SUGO (宮城県)
開催日 10月5日・6日
参加台数 OK クラス 29 台
天候 晴れ
路面状況 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督:佐藤奨二

ドライバー:水野皓稀 / 佐藤凌音

メカニック:伊藤進/橋本剛基

エンジン担当:K SPEED WIN

アドバイザー:井上寛之



2019 全日本カート選手権 第7&8戦 (スポーツランド SUGO)

2019 オートバックス全日本カート選手権は前回大会から約3カ月の夏休みをへて東北の地、宮城県はスポーツランドSUGOへと戦いの場を移動。ここSUGOでは毎年速さを発揮出来ているサーキット。今回もテストから非常に好調でドライ、ウェットともに速さを発揮できている。全日本第4戦で2位表彰台の水野皓稀選手は、昨年のSUGOラウンドも速さがあり、上位走行中最終ラップで止まってしまったものの、今年も速さを見せてくれるはず。今シーズン最高峰クラスのルーキーの一人、佐藤凌音選手は、レース開催コースが東地域になり最高峰カテゴリーの洗礼をこの2戦は受けましたが、タイヤテストでは好タイムをマーク。東北の地で更なる進化が出来るか・・・全日本後半戦の重要なレースです。



水野 皓稀 選手



佐藤 凌音 選手



【タイムトライアル】 A 組水野 4 位(全体 10 位) / A 組佐藤 8 位(全体 15 位)

木曜日からの練習走行では非常に好調であった両選手。しかし金曜日～土曜日午前中になり、うまくタイヤのいいところを使えなくなる症状に……。タイムトライアルの組み分けでは通常分があると思われる A 組に両名とも振り分け。またこの A 組には今から遡ること 10 年前、2009 年に鈴鹿サーキットで行われた世界格式レースである CIK-FIA ワールドカップの最高峰、当時のスーパー KF クラスで私達 INTREPID JAPAN と共に優勝したベルギーのイヤニック・デ・ブラバンデルも今大会にエントリー、A 組に振り分けられている。そんなイヤニック選手も今回は倒さなくてはいけない相手。14:50 から始まったタイムトライアルでは水野が順調にタイムを更新し 37,616 で 4 位。グリップ不足に悩まされる水野とは対照的に、本人もマシンも元気な動きの佐藤凌音であったが経験のなさが出てしまう……。タイヤの熱入れも完了し、いざこれからという時にスローダウンするマシンに引っ掛かり、その後もクリアラップを上手く取れない……。終わってみれば 37,706 というタイムでフィニッシュ……。しっかり走れていれば TOP3 圏内であろうスピードがあったと考えられる状態で非常に残念であった。

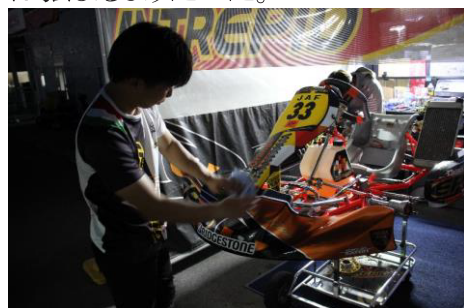


【第 7 戦 予選】 水野 8 位 / 佐藤 22 位(F スポイラー脱落ペナルティ)



全日本最高峰 OK クラス第 7 戦の予選は夕暮れ迫る 16 時 10 分ごろに各車コースイン。隊列も綺麗にスタート。スタート直後の 3 コーナーで水野は不利な位置取りから数台にパスされ 11～12 位前後へとドロップ。全日本本庄大会以来の入力不足が顔を見せ始める……。一方、スピードはあるもののタイトラで 15 位に沈んだ佐藤。追い上げたいところであったがスタート直後の 4 コーナーで前の車両と接触。フロントスポイラーが少しずれてしまう……。5 秒ペナルティとは分かりつつブッシュ。10 位に迫る走りを展開しタイムはトップと変わらないだけに、

一つの詰めの甘さが最高峰クラスでは大きくのしかかると痛感する。しかも予選後半はタイヤを使いすぎ 14 位にドロップしてゴール。その後スタート直後のフロントスポイラー脱落ペナルティをうけてしまい結果 22 位となった。水野は苦しみながらも 8 位フィニッシュ。夕方になり気温が下がるとタイヤへの入力不足の症状は強まるようだった。



【第 7 戦 決勝】 水野 24 位(リタイア)/ 佐藤 14 位

日付けは日曜日が変わって第 7 戦の決勝。土曜日の夜から雨となり早朝まで降り続いた雨。各クラスの公式練習で路面はだいぶ乾き OK クラスの決勝時にはライン上はほぼドライ。レインタイヤを選択するドライバーは現れなかった。(ちなみに日曜日朝の公式練習の雨では INTREPID の水野、佐藤の両名は素晴らしいタイムが出ていた。) 決勝レースは 28 周。午前 9 時 40 分にスタートとなった。スタートは 2 番手スター

トの佐々木選手が完璧なスタートでポールスタートの渡会選手から5メートル近いマージンを築く。ドライ路面になったとはいえ、完全にグリップがある状況にないためかスタートでは上位陣は無理をせず各車無難なスタート。水野は4コーナーまでに1台をパスし7位に浮上。また佐藤も今回は無難にスタートを決める。4コーナーでは中団で接触もあり順位を上げる。佐藤はペースもまずまずで前方のマシンを次々にパス。15周目には8位に浮上！しかし、本人のドライビングスタイルと激しいバトルのためにタイヤの崖が来てしまいレース後半は防戦となってしまふ。またスタート直後に7位に浮上しタイヤも残っているであろう水野は3周目の5コーナで突然のスローダウン……。なんとリードバルブがここで破損しエンジンもかからなくなり無念のストップとなった……。佐藤はタイムは優勝の佐々木選手と変わらないものの乗り方やレーススタイルはまだまだ改善の予知が大いにありそうだ……。最後は14位でフィニッシュ。課題の残る決勝となった。



【第8戦 予選】 水野 17 位(リタイア) / 佐藤 23 位(リタイア)

OK クラス第8戦の予選は17周。路面が完全ドライとなった11:50にレースはスタート。水野、佐藤の両選手ともに無難にスタート。しかし佐藤は3周目の8コーナーで後続と接触……。リタイアとなる。また、レースはその後複数の選手が各コーナーでクラッシュを起こす。これを重大事故の発生とみなし7周目でニュートラリゼーションが発動。ニュートラリゼーションは今年から全日本に導入されたが、発動されるのは初めてとなった。この時点で水野は6位。このニュートラリゼーション、横転した選手が出たため負傷したドライバーを搬出するため7周に及んだ……。ここで悲劇が。7コーナー～8コーナーで水野がスローダウン……。マシンを止めてしまふ。またしてもリード弁が壊れてしまった。本当に今回は運にも見放される……。しかも今回は予選でリタイアした時に得られる唯一のメリットにあるタイヤ温存もニュートラリゼーションのスロー走行であまりメリットは得ることは出来ず。本当に無念のダブルリタイアとなった。



【第8戦 決勝】 水野 22 位 / 佐藤 26 位(リタイア)



OK クラス第8戦の決勝は午後1時半ごろにスタート。既に日が陰ってきている。このレースでは予選での負傷者が決勝に出場できず31台から2名の選手を欠き、29台でのスタート。スタートでは両選手とも中団の難しい位置を切り抜け4コーナーへ……。しかし水野が後方からの接触でスピン……。それを今度はチームメイトの佐藤が避けようとコースアウト……。いきなり何とも歯がゆいスタートとなってしまふ。(レース中に同士討ちとのアナウンスがありましたが、そうではありません。)しかし、何とか両名とも周回遅れになる前にコース復帰。トップ勢と遜色ないタイムで追い上げました。しかし、コース復帰にも相当時間がかかっており、水野は後続に追いついたところでゴール。

22位、また佐藤はアクセルワイヤーにトラブル……。リタイアとなりました。

前回大会の茂原の嫌な流れを払拭しようと望んだ一戦でしたが、応援して頂く皆様に大変申し訳ない結果

になってしまいました。木曜のドライと金曜日のレインコンディションでも上位のタイムでしたが、セットが完璧ではないゴムに上手くアジャストする事が出来ずに苦しみました。いつもかなりタイヤが残る事が多いのですが、今回は減らしてしまいました。日曜日にはソリューションの1つであった雨も公式練習のあとには乾いてしまい、予選で両選手とも序盤に止まってしまったためのタイヤアドバンテージもニュートラリゼーションのスロー走行で予選を走りきった各選手もタイヤが残り、決勝での強烈なアドバンテージにはなりません。最高峰クラスでは他のカテゴリーで何でもない些細な出来事が突然膨らみ襲いかかってくると改めて思いしらしました。本当に難しいですが、約一月後に迫っているツインリンクもてぎでの最終戦に向けて最後まで頑張ります。今回もご声援賜った皆様に感謝申し上げます。
ありがとうございます。



#33 ドライバー 水野皓稀 コメント



今回の茂原大会はいつも苦手なスタートがう
まくいったのは良かったですが、まだまだバトルが弱いのと、
コース攻略できたのが6戦の予選と遅く、
まだまだ未熟だと思います。
次の菅生は走ったことのあるコースで、
コース前半区間は身体に厳しいので、しっかりと
フィジカルトレーニングをして今回よりも良い結果を出したいです

#44 ドライバー 佐藤凌音 コメント



今回の菅生大会では、終始タイヤマネジメントが
課題だったのと、タイムトライアルではスリップを使う事を
意識しすぎて自分の走りが出来なかった事が反省点だと思います。
レース展開に関してもまだまだ甘いです。
その課題を一つ一つ克服していこうと思います。
次は茂木での最終戦では、初心に戻り勢いのあるレースをして
ドキドキワクワクした気持ちで挑みたいと思います。

